

2018.08.24-26.

**日本行動分析学会
第36回年次大会**

プログラム

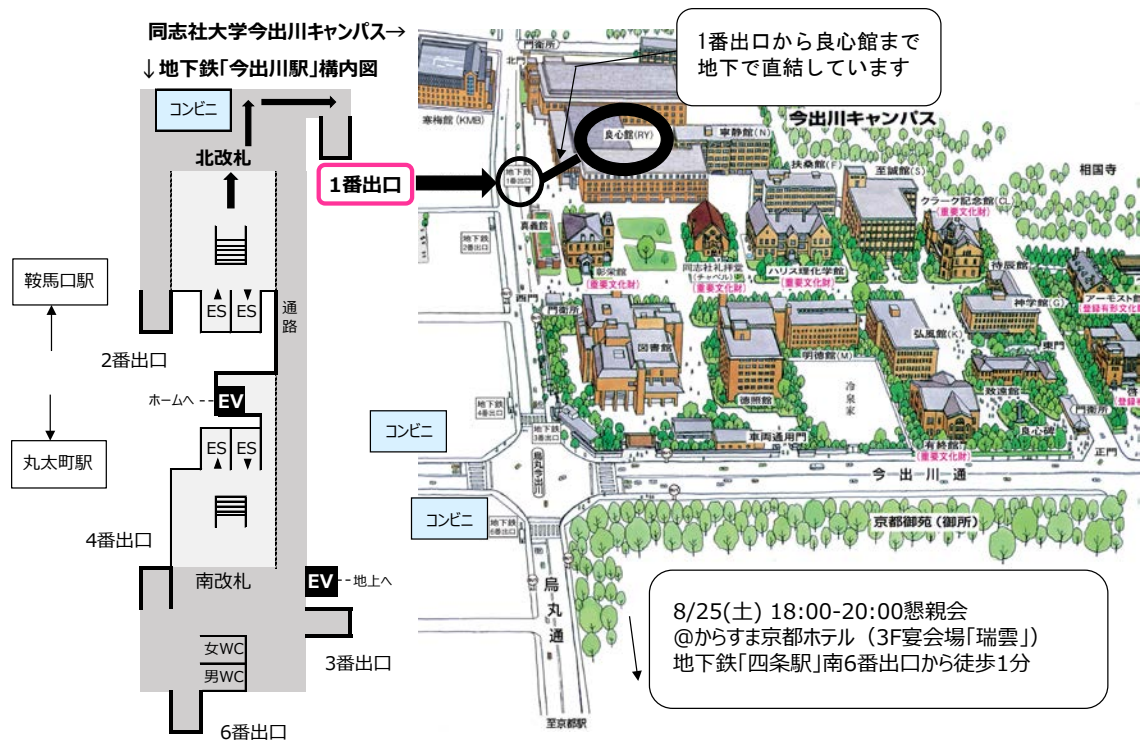
同志社大学
今出川キャンパス
良心館

大会スケジュール

| | | 9:30 | 12:05 | 12:30 | 13:30 | 14:30 | 15:30 | 16:30 | 18:00 |
|-------------|-------|------------------------|-------|--------------------------|-------------|-------------|-------------|-------|---------------|
| 8/24 (金) | RY地1 | 若手口頭発表 (自主企画シンポジウム) | | | | 教育講演1 | 教育講演2 | 教育講演3 | |
| | RY103 | | | | 自主企画シンポジウム1 | 自主企画シンポジウム4 | | | |
| | RY地2 | | | | 自主企画シンポジウム2 | 自主企画シンポジウム5 | | | |
| | RY107 | | | | 自主企画シンポジウム3 | 自主企画シンポジウム6 | 自主企画シンポジウム7 | | |
| | RY105 | | | | | | | 理事会 | |
| | | 9:00 | 11:00 | 12:00 | 14:00 | 16:00 | 17:30 | 18:00 | 20:00 |
| 8/25 (土) | RY地2 | 大会企画シンポジウム | | 会員集会 | | | 特別講演 | | |
| | RY104 | | | | ポスター1 | | | | |
| | | 受付 | | | | | | | 懇親会@からすま京都ホテル |
| | | 9:00 | 9:30 | 11:30 | 12:30 | 14:00 | 14:30 | 15:30 | 16:30 |
| 8/26 (日) | RY105 | | | 編集委員会 | | | | | |
| | RY104 | | | ポスター2 | | | | | |
| | RY103 | | | | | 公募企画シンポジウム1 | | | |
| | RY107 | | | | | 公募企画シンポジウム2 | | | |
| | RY地2 | 学会企画シンポジウム | | | 公開講座1 | 公開講座2 | | | |
| RY地1 | | | | 海外招聘研究者による研修会 (公開講座3) | | | | | |
| | | 受付 | | | | | | | |

会場案内

同志社大学今出川キャンパス



懇親会

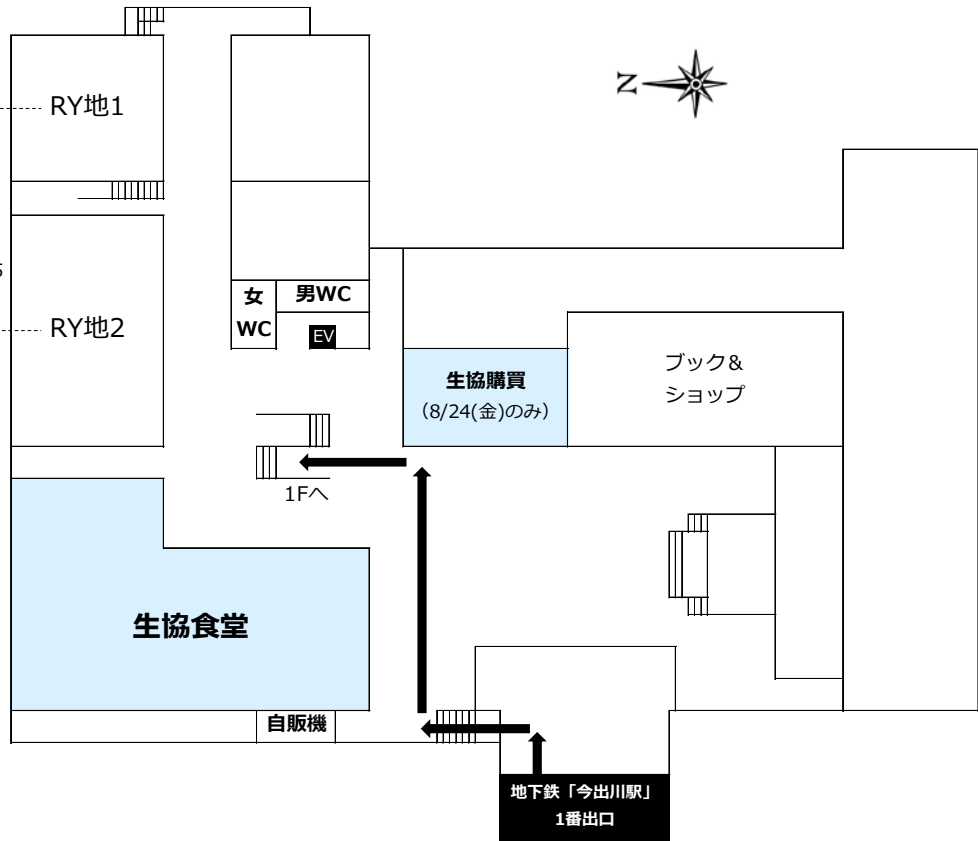
8月25日(土)の18:00から、からすま京都ホテル3F「瑞雲」で開催します。京都市営地下鉄烏丸線「四条駅」で下車していただき、南改札口6番出口徒歩1分です。会場への詳しい道順はホテルHPをご参照ください (<https://www.hotel.kyoto/karasuma/access/>)。

会場見取り図（良心館地下1階，1階）

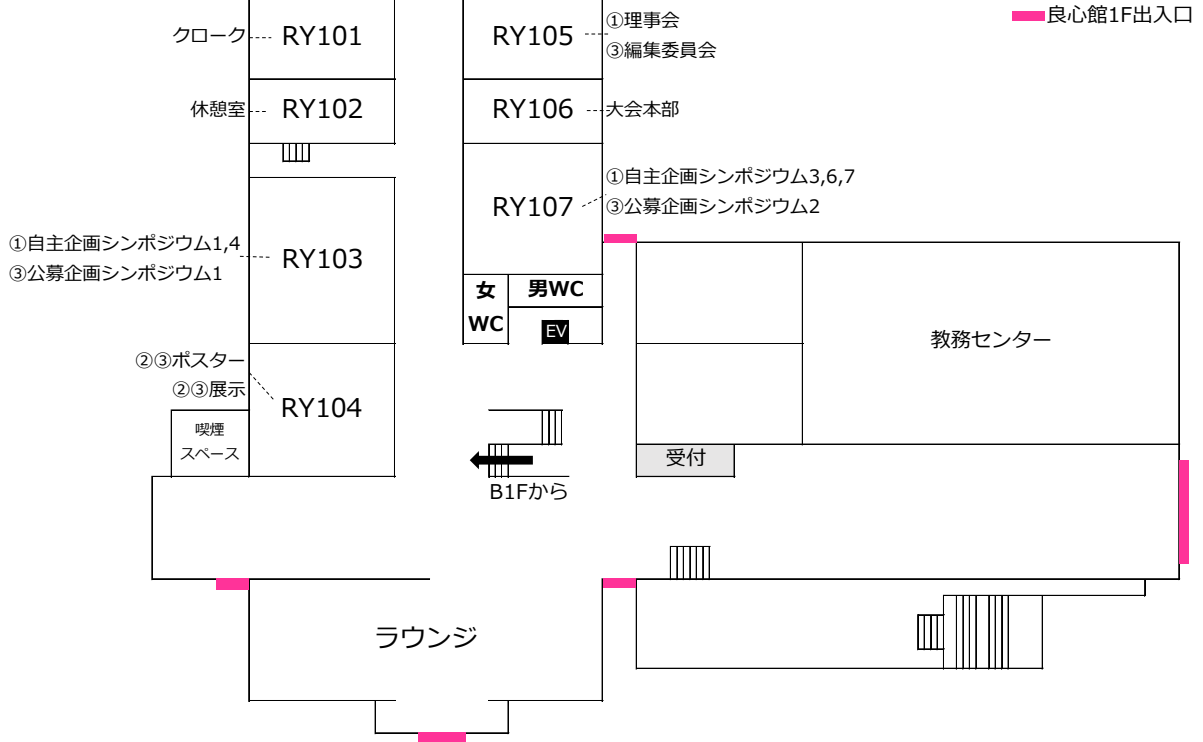
B1F

- ①若手口頭発表
- ①教育講演1,2,3
- ③海外招聘研究者研修会
(公開講座3)

- ①自主企画シンポジウム2,5
- ②大会企画シンポジウム
- ②会員集会
- ②特別講演
- ③学会企画シンポジウム
- ③公開講座1,2



1F



ごあいさつ

平成 30 年 7 月豪雨で被災された方々、大阪北部地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、犠牲になられた方々に哀悼の意を深く表します。

このたび、《一般社団法人》日本行動分析学会第 36 回年次大会を同志社大学（今出川キャンパス）にて開催させていただくことになりました。会期は、2018 年 8 月 24 日（金）・25 日（土）・26 日（日）の 3 日間です。京都での大会開催は、実に「27 年ぶり」ということになり、身の引きしまる思いで準備を進めております。

8 月の京都は、残暑が厳しい時期になりますが、観光スポットも多く、交通の便も非常に良いので「夏の京都」を存分にお楽しみいただけるのではないかと思います。本大会が、皆様の実りある交流と行動分析学の発展に貢献できますよう、努力いたします。京都で皆様にお会いできますことを楽しみにいたしております。連日猛暑が続いておりますので、くれぐれもお身体にお気をつけてお越しく下さい。

日本行動分析学会第 36 回年次大会準備委員会 委員長 武藤 崇

大会参加者へのご案内

1. 会場

大会会場は、同志社大学今出川キャンパス（〒602-8580 京都市上京区今出川通り烏丸東入）です。京都市営地下鉄烏丸線「今出川駅」の北改札1番出口の連絡通路から直接入構いただけます（連絡通路利用可能時間：24（金）8:00～19:00、25（土）8:00～18:00、26（日）8:00～17:00 予定）。

2. 受付

受付は、大会2日目8月25日（土）は8:30から、大会3日目26日（日）は9:00から、良心館1階で行います。予約参加をされた方は、お名前とご所属を印刷した参加章をお渡しいたします。当日参加の方には、大会参加費のお支払いと引き換えに参加章をお渡しいたしますので、お名前とご所属をご記入ください。参加章は、大会会場内では、はっきりと見えるところにつけてください。

3. 懇親会

8月25日（土）の18:00から、からすま京都ホテル3F「瑞雲」で開催します。京都市営地下鉄烏丸線「四条駅」で下車していただき、南改札口6番出口徒歩1分です。会場への詳しい道順はホテルHPをご参照ください（<https://www.hotel.kyoto/karasuma/access/>）。

4. 諸費用

当日参加による大会参加費は以下のとおりです。お支払いは、受付にてお願いいたします。大学院生・学部生の方は、学生証もご提示ください。

大会参加費（当日）

| 区分 | 料金 |
|------------|--------|
| 正会員（一般・夫婦） | 5,500円 |
| 正会員（大学院生） | 4,500円 |
| 正会員（学部生） | 1,500円 |
| 非会員 | 6,000円 |

5. クローク

大会2日目と3日目に、1階 RY101 教室に設けております。ご利用時間は、8月25日（土）は8:30～17:45、26日（日）は9:00～16:45です。

6. 休憩室

大会2日目と3日目に、1階 RY102 教室を休憩室として設けております。論文交換スペースも兼ねています。

7. 書籍の展示・販売

書籍の展示と販売は、1階 RY104 にてポスター会場と併設して行います。

8. お呼び出し・携帯電話のご使用

原則として会場内でのお呼び出しはいたしません。また、会場内では携帯電話・スマートフォンなどの電源をお切りいただくかマナーモードに設定してください。

9. お食事について

良心館地下1階の生協食堂が期間全日営業しております。営業時間は、11:00～13:00です。自動販売機は良心館地下1階にあります。地下鉄今出川駅北改札口にファミリーマートがありますのでそちらもご活用ください。

大学周辺には飲食店が多数ありますが、日曜定休の店舗も多いためご注意ください。

10. コピー機

近隣（今出川駅北改札口，烏丸今出川南西角）にはコンビニエンスストアが営業しておりますので、そちらのコピー機をご利用ください。

11. キャンパス内への車の乗り入れ

キャンパス内には、事前の許可が無ければ自動車の乗り入れができません。車いすのご利用など、自動車のキャンパス内への乗り入れが必要な場合には、8月20日（月）までに、大会準備委員会までお申し出ください。

14. 連絡先

大会本部（1階 RY106 教室）または jaba-meeting@j-aba.jp にご連絡ください。

15. その他

喫煙は決められた場所をお願い致します。喫煙場所は、良心館北に1箇所ございます（「会場見取り図」をご覧ください）。その他ご不明な点がございましたら、スタッフの名札を着用した係員までお問い合わせください。

シンポジウム関係者へのご案内

1. パソコン・プロジェクターなど

シンポジウム会場に Windows パソコン (Windows 8.1 Enterprise , Office 2016, CD/DVD ドライブ内蔵), プロジェクターを準備いたします。ご自身のパソコン等を用いられる場合は、VGA 端子および HDMI 端子での接続が可能です (これらの端子の接続に必要なコネクタ等をご自身でご用意ください)。その他の機材については準備委員会にお問い合わせください。

2. 配布資料

配布資料がある場合は、企画者ご自身でご準備ください。

ポスター発表者へのご案内

1. 会場・時間

8月25日(土)は14:00~16:00の時間帯に、26日(日)は12:30~14:30の時間帯に、良心館1階RY104教室の発表会場にポスターを掲示していただきます。発表者の在席責任時間は、奇数番号が前半の1時間、偶数番号が後半の1時間となります。セッション終了後は当日のプログラム終了までにポスターの撤去をお願いします。残っているポスターにつきましては、大会本部で処分いたします。

2. 受付

入口デスクにてポスター番号を確認の上、所定のパネルにポスターを貼ってください。

3. 掲示パネル

パネルのサイズは、ポスターを貼る布面の幅が83cm、高さが164cmです。布面の外の枠まで含めると幅が86cm、足まで含めると高さが180cmとなっています。布面の幅がA0サイズ(幅84.1cm、高さ118.9cm)より少し小さくなっておりまますのでご注意ください。

4. 発表要件

発表時間中ポスターを掲示し、在席責任時間中に在席し、参加者と質疑応答することにより、正式発表となります。

5. 筆頭発表者欠席の場合の扱い

筆頭発表者が欠席した場合には、連名発表者の代行を認めます。発表論文集に記載されている筆頭発表者が連名発表者に交代する場合、会期前は大会準備委員会に、会期中は大会本部にご連絡ください。

6. その他

配布資料がある場合は、各自でご準備ください。

論文交換テーブル

日本行動分析学会では、会員の研究交流を推進するために既発表の論文を著者が展示し希望者に配布するスペース(論文交換テーブル)を年次大会で設けています。大会2日目と3日目(8月25日・26日)に、休憩室(RY102教室)にご用意致します。専門誌、紀要論文など発表媒体は問いません。紹介したい自著論文の抜刷(またはコピー)をご持参ください。

原則として、見本の抜刷を1編につき1部ご準備頂き、所定の場所で参加者が自由に閲覧できるようにします。抜刷の希望者が所定の名簿に名前と住所またはメールアドレスを記入し、著者が後日送付する方法で運営します。多くの部数をご持参頂ける場合にはこの限りとせず、見本の1部以外は、希望者が自由にお持ち帰り頂けることとします。

会期終了後に残っているものについては、大会本部で処分いたします。また、紛失などの責任については負いかねますので、予めご了承ください。

日本行動分析学会の会員の方へのご案内

1. 会員集会

会員集会を大会2日目（8月25日）の12:00から、地下1階 RY 地2にて行いますので、ぜひご出席ください。

2. 理事会

理事会を、大会1日目（8月24日）の16:30から、1階 RY105で行います。理事の方はご参集ください。

3. 編集委員会

『行動分析学研究』の編集委員会を大会3日目（8月26日）の11:30から、1階 RY105で行います。編集委員の方はご参集ください。

大会プログラム

特別講演

8月25日(土) 16:00~17:30 良心館地下1階 (RY地2)

Quality of life in dementia: Behavioral strategies to improve mood, sleep, and physical function

講演 Susan. M. McCurry Ph.D. (University of Washington, School of Nursing)

司会 武藤 崇 (同志社大学心理学部)

Takashi MUTO (Doshisha University)

主な著作

McCurry S. M. (2006). When a family member has dementia: Steps to becoming a resilient caregiver. PraegerPub Text.

McCurry S. M. & Drossel, C. (2011). Treating dementia in context: A step-by-step guide to working with individuals and families. American Psychological Association.

教育講演 1

8月24日（金）13:30～14:20 良心館地下1階（RY地1）

研究行動の行動分析：インストルメンテーションの事後分析

講演 藤 健一（立命館大学名誉教授）
Ken'ichi FUJI (Ritsumeikan University)

教育講演 2

8月24日（金）14:30～15:20 良心館地下1階（RY地1）

行動健康心理学の展望

講演 伊藤 正人（大阪市立大学名誉教授）
Masato ITO (Osaka City University)

教育講演 3

8月24日（金）15:30～16:20 良心館地下1階（RY地1）

高齢を生きる

講演 浅野 俊夫（愛知大学名誉教授）
Toshio ASANO (Aichi University)

大会企画シンポジウム

8月25日(土) 9:00~11:00 良心館地下1階 (RY地2)

食行動と行動分析学

Eating behavior and Behavioral Analysis

- 企画 第36回年次大会準備委員会
司会 福田 実奈 (同志社大学)
Mina FUKUDA (Doshisha University)
- 話題提供 中島 定彦 (関西学院大学)
Sadahiko NAKAJIMA (Kwansei Gakuin University)
横光 健吾 (立命館大学)
Kengo YOKOMITSU (Ritsumeikan University)
大屋 藍子 (同志社大学)
Aiko OHYA (Doshisha University)
- 指定討論 福田 実奈 (同志社大学)
Mina FUKUDA (Doshisha University)
吉野 俊彦 (神戸親和女子大学)
Toshihiko YOSHINO (Kobe Shinwa Women's University)

学会企画シンポジウム

8月26日(日) 9:30~11:30 良心館地下1階 (RY地2)

超高齢化社会における行動分析学(2)

「わがこと・まるごと」地域ケア時代における認知症問題に行動分析学はどのように寄与できるのか

How Can Behavior Analysis Arrange Our Super-Aged Society? (Part II)

- 企画 武藤 崇 (同志社大学)・吉野俊彦 (企画委員会・神戸親和女子大学)
Takashi MUTO (Doshisha University) & Toshihiko YOSHINO (j-ABA board member of academic planning, Kobe Shinwa Women's University)
- 司会 吉野 俊彦 (神戸親和女子大学)
Toshihiko YOSHINO (Kobe Shinwa Women's University)
- 話題提供 武藤 崇 (同志社大学)
Takashi MUTO (Doshisha University)
成本 迅 (京都府立医科大)
Jin NARUMOTO (Kyoto Prefectural University of Medicine)
山中 克夫 (筑波大学)
Katsuo YAMANAKA (University of Tsukuba)
大久保 賢一 (畿央大学)
Kenichi OHKUBO (Kio University)

公募企画シンポジウム 1

8月26日(日) 14:30~16:30 良心館1階 (RY103)

PBS/ACTの行き着く先は『行動分析学との決別』か？

To separate or not to separate? The future of PBS/ACT and behavior analysis

- 企画・司会** 田中 善大 (大阪樟蔭女子大学)・三田村仰(立命館大学)
Yoshihiro TANAKA (Osaka Shoin Women's University) & Takashi MITAMURA (Ritsumeikan University)
- 話題提供** 大久保 賢一(畿央大学)
Kenichi OHKUBO (Kio University)
庭山 和貴(大阪教育大学)
Kazuki NIWAYAMA (Osaka Kyoiku University)
高橋 稔(目白大学)
Minoru TAKAHASHI (Mejiro University)
大月 友(早稲田大学)
Tomu OHTSUKI (Waseda University)
- 指定討論** 島宗 理 (法政大学)
Satoru SHIMAMUNE (Hosei University)

公募企画シンポジウム 2

8月26日(日) 14:30~16:30 良心館1階 (RY107)

行動の持続・固執をめぐる研究の現状と今後の展開

一変化抵抗, 反応復活およびそれらの理論モデルをもとに一

Current State and Future Development of Behavioral Persistence Research

- 企画** 井垣 竹晴 (流通経済大学)・藤巻峻 (慶應義塾大学・早稲田大学)
Takeharu IGAKI (Ryutsu Keizai University) & Shun FUJIMAKI (Keio University, Waseda University)
- 話題提供** 井垣 竹晴 (流通経済大学)
Takeharu IGAKI (Ryutsu Keizai University)
遠山 矢緒人 (明星大学)
Yaoto TOYAMA (Meisei University)
藤巻 峻 (慶應義塾大学・早稲田大学)
Shun FUJIMAKI (Keio University, Waseda University)
黒田 敏数 (愛知文教大学)
Toshikazu KURODA (Aichi Bunkyo University)
- 指定討論** 大河内 浩人 (大阪教育大学)
Hiroto OKOUCHI (Osaka Kyoiku University)

8月24日(金) 9:30~12:05 良心館地下1階 (RY地1)

第二回若手研究者口頭発表セッション

2nd oral presentation session by young behavior analysts

企画・運営 日本行動分析学会優秀発表賞選考委員会・日本行動分析学会若手会

- 発表者① 藤巻峻 (慶應義塾大学)
Shun FUJIMAKI (Keio University)
文脈変化は反応復活に影響するか?
- 発表者② 石塚裕香 (筑波大学)
Yuka ISHIZUKA (University of Tsukuba)
自閉スペクトラム症児に対する「模倣」を基軸とした早期発達支援
- 発表者③ 片山綾 (大阪市立大学)
Aya KATAYAMA (Osaka City University)
報酬の損失を考慮したセルフ・コントロール選択パラダイムの妥当性の検討
- 発表者④ 畑佑美 (大阪市立大学)
Yumi HATA (Osaka City University)
全体的強化密度に対する感度に影響する要因の検討

自主企画シンポジウム 1

8月24日(金) 12:30~14:30 良心館1階 (RY103)

新しい研究領域としての「臨床言語心理学」は可能か 行動分析学からの提言

“Psychology of Verbal Behavior in Clinical Setting” as
the New Interdisciplinary Research Domain: From a View Point of Behavior Analysis.

- 企画・司会 武藤 崇 (同志社大学)
Takashi MUTO (Doshisha University)
- 話題提供 武藤 崇 (同志社大学)
Takashi MUTO (Doshisha University)
大月 友 (早稲田大学)
Tomu OHTSUKI (Waseda University)
三田村 仰 (立命館大学)
Takashi MITAMURA (Ritsumeikan University)
- 指定討論 杉原 保史 (京都大学)
Yasushi SUGIHARA (Kyoto University)
森岡 正芳 (立命館大学)
Masayoshi MORIOKA (Ritsumeikan University)

自主企画シンポジウム 2

8月24日(金) 12:30~14:30 良心館地下1階 (RY地2)

応用行動分析に基づく早期療育に対する公費化の可能性 Toward public funding for early behavioral intervention in Japan

- 企画 藤坂 龍司 (NPO 法人つみきの会)
Ryuji FUJISAKA (Tsumiki no kai)
- 司会 田中 桜子 (アジアパシフィック ABA ネットワーク)
Sakurako TANAKA (Asia Pacific ABA network)
- 話題提供 藤坂 龍司 (つみきの会)
Ryuji FUJISAKA (Tsumiki no kai)
高原 聡子 (ABA 公費化を目指す親の会)
Satoko TAKAHARA (Parents for Public Funding for Children
with Autism)
林 文博 (マママとまママ)
Fumihiko HAYASHI (Mamama & mamama)
- 指定討論 井上 雅彦 (鳥取大学)
Masahiko INOUE (Tottori University)

産業現場における安全管理への行動分析学の適用

The Contribution of Behavior Analysis for Safety Management in Occupational Safety and Health

- 企画** 北條 理恵子 (産業行動分析学研究会代表・労働安全衛生総合研究所・日本機械工業連合会委員)
Rieko HOJO (The Japanese Association for Occupational Behavior Analysis (J.AOBA), Japan National Institute of Occupational Safety and Health (JNIOOSH), ISO committee member of the Japan Machinery Federation (JMF))
- 司会** 土屋 政雄 ((株) アドバンテッジ リスク マネージメント)
Masao TSUCHIYA (ADVANTAGE risk management Co., Ltd.)
- 話題提供** 北條 理恵子 (産業行動分析学研究会代表・労働安全衛生総合研究所・日本機械工業連合会委員)
Rieko HOJO (J.AOBA, JNIOOSH, JMF)
濱島 京子 (労働安全衛生総合研究所)
Kyoko HAJIMA (JNIOOSH)
福田 隆文 (長岡技術科学大学システム安全工学研究室)
Takabumi FUKUDA (Nagaoka University of Technology)
- 指定討論** 小野 浩一 (駒澤大学名誉教授)
Koichi ONO (Komazawa University)

自主企画シンポジウム 4

8月24日(金) 14:30~16:30 良心館1階 (RY103)

統合失調症女児へのCBT事例に対するABAからの見地

The viewpoint of ABA regarding a CBT case report of a girl with schizophrenia

| | |
|------|--|
| 企画 | 米山 直樹 (関西学院大学)・西川公平 (CBTセンター) Naoki YONEYAMA (Kwansei Gakuin University) & Kohei NISHIKAWA (Japan CBT center) |
| 司会 | 米山 直樹 (関西学院大学) Naoki YONEYAMA (Kwansei Gakuin University) |
| 話題提供 | 西川 公平 (CBTセンター) Kohei NISHIKAWA (Japan CBT center) 稲垣 貴彦 (滋賀県立精神医療センター) Takahiko INAGAKI (Shiga University of Medical Science) |
| 指定討論 | 松見 淳子 (関西学院大学) Junko TANAKA-MATSUMI (Kwansei Gakuin University) 蒲生 裕司 (こころのホスピタル町田) Yuji GAMO (Kokorono Hospital Machida) 宮 裕昭 (市立福知山市民病院) Hiroaki MIYA (Fukuchiyama City Hospital) |

自主企画シンポジウム 5

8月24日(金) 14:30~16:30 良心館地下1階 (RY地2)

言語関係の機能的拡張に向けた等価性アセスメントとトレーニング

Equivalence Assessment & training for Functional Extension of Verbal Relation

| | |
|------|--|
| 企画 | 竹内 康二 (明星大学) Koji TAKEUCHI (Meisei University) |
| 話題提供 | 近藤 健太 (明星大学) Kenta KONDO (Meisei University) 米山 祥平 (明星大学) Shouhei YONEYAMA (Meisei University) 笏田 文記 (株式会社スタートライン) Fumiki HANEDA (Start Line Co.) |
| 指定討論 | 山本 淳一 (慶応義塾大学) Junichi YAMAMOTO (Keio University) |

自主企画シンポジウム6

8月24日(金) 14:30~16:30 良心館1階 (RY107)

日本におけるスクールワイド PBS の発展と継続性を支えるもの

How can we develop and maintain School-Wide PBS in Japan?

- 企画・司会 三田地 真実 (星槎大学)・大久保 賢一 (畿央大学)
Mami MITACHI (Seisa University) & Kenichi OHKUBO (Kio University)
- 話題提供 大久保 賢一 (畿央大学)
Kenichi OHKUBO (Kio University)
石黒 康夫 (桜美林大学)
Yasuo ISHIGURO (Ohbirin University)
園部 直人 (山形県立鶴岡養護学校)
Naoto SONOBE (Yamagata Prefecture Tsuruoka Special Needs School)
松山 康成 (大阪府寝屋川市立啓明小学校)
Yasunari MATSUYAMA (Osaka Keimei Elementary School)
三田地 真実 (星槎大学)
Mami MITACHI (Seisa University)
- 指定討論 平澤 紀子 (岐阜大学)
Noriko HIRASAWA (Gifu University)
枝廣 和憲 (名古屋市立大学)
Kazunori EDAHIRO (Nagoya City University)

自主企画シンポジウム7

8月24日(金) 16:30~18:30 良心館1階 (RY107)

応用行動分析の新しい地平を拓く

Taking Behavior Analysis to Beauty Salon, Zoo, Dental Hygiene, and Animal Shelter

- 企画・司会 杉山 尚子 (星槎大学大学院教育学研究科)
Naoko SUGIYAMA (Seisa University)
- 話題提供 赤松 隆滋 (NPO 法人そらいろプロジェクト京都)
Ryuji AKAMATSU (NPO Sorairo Project-KYOTO),
松岡 円 (吉田学園医療歯科専門学校・星槎大学)
Madoka MATSUOKA (Yoshida Gakuen Medical and Dental College)
伴 和幸 (大牟田市動物園・星槎大学大学院)
Kazuyuki BAN (Omuta City Zoo)
山本 央子 (京都動物愛護センター・ヤマザキ動物看護大学・帝京科学大学)
Nakako YAMAMOTO (Kyoto Animal Welfare Center)
- 指定討論 松見 淳子 (関西学院大学)
Junko TANAKA-MATSUMI (Kwansei Gakuin University)

ポスター発表 1 良心館 1 階 (RY104)

8月25日(土) ポスター掲示時間: 14:00~16:00

在席責任時間: 奇数番号 14:00~15:00

偶数番号 15:00~16:00

- | | | |
|------|--|--|
| 1-01 | ゼブラフィッシュにおける軽い電気ショックの罰効果 | ○ 黒田 敏数 水谷 優斗 Carlos R. X. Cançado Christopher A. Podlesnik |
| 1-02 | 選択変更後遅延と強化子提示が選択行動に及ぼす影響の局所分析 | ○ 丹野 貴行 折原 友尊 |
| 1-03 | 損失の確率価値割引と運転時のヒヤリ・ハット体験の関連—業務運転者を対象とした検討— | ○ 松本 明生 平岡 恭一 |
| 1-04 | 遅延価値割引に及ぼすギャンブル行動と状況要因の効果 | ○ 平岡 恭一 |
| 1-05 | 単一時隔スケジュールがハットのキーつつき位置における変動性に及ぼす効果 | ○ 古野 公紀 |
| 1-06 | ノンアルコールビールが反応抑制に及ぼす効果—摂取中の効果の検討— | ○ 福田 実奈 |
| 1-07 | Go/No-Go 型見本合わせにおける消去試行がハットにおける対称律の成立に果たす役割の実験的検討 | ○ 石塚 雅貴 森山 哲美 |
| 1-08 | サッカリン摂取によりラットの体重と摂食行動は増加する | ○ 青山 謙二郎 |
| 1-09 | スマートフォン使用行動と報酬の遅延価値割引 | ○ 桑原 正修 松本 明生 |
| 1-10 | 視線の有無がコミュニケーション行動に与える影響 | ○ 八重樫 勇介 本谷 亮 |
| 1-11 | タイムアウト回避における反応努力の影響 | ○ 腰冢 由子 |
| 1-12 | 給食場面で不適切行動を示すダウン症児童への指導—摂食行動に対するエラーレス指導— | ○ 高津 梓 奥田 健次 |
| 1-13 | 重度重複障がい の 肢体不自由児における PECS の実践事例 | ○ 宮川 雄基 |
| 1-14 | 集団随伴性における強化随伴単位が自閉症スペクトラム障害児の仲間同士の相互交渉に与える効果 (1) —仲間への自発的な働きかけを中心— | ○ 熊南 真人 村中 智彦 |

ポスター発表 1 良心館 1 階 (RY104)

8月25日(土) ポスター掲示時間: 14:00~16:00

在席責任時間: 奇数番号 14:00~15:00

偶数番号 15:00~16:00

- | | | |
|------|--|--|
| 1-15 | 集団随伴性における強化随伴単位が自閉症スペクトラム障害児の仲間同士の相互交渉に与える効果(2) —仲間への働きかけの反応型と機能, 仲間の応答との関連— | ○ 村中 智彦 熊南 真人 |
| 1-16 | トンネル作業環境における支援的保護システム下での作業者に対する行動分析的介入法 | ○ 北條 理恵子 松井 克海 濱島 京子 福田 隆文 高橋 聖 清水 尚憲 |
| 1-17 | 高齢の慢性疼痛患者に対するアクセプタンス&コミットメント・セラピー(ACT): 事例検討 | ○ 酒井 美枝 浅井 明倫 太田 晴子 近藤 真前 杉浦 健之 水谷 潤 明智 龍男 |
| 1-18 | 意識障害と Pusher 症状を呈した超高齢重度片麻痺患者に対する介入 | ○ 上村 朋美 加藤 宗規 |
| 1-19 | 集団場面における発達障害者の行動問題への介入の一考察—社会的妥当性をふまえた代替行動の形成— | ○ 岡部 絢 陶 貴行 |
| 1-20 | 日本版「Good Behavior チケット」の開発と活用による School-Wide PBS (学校環境におけるポジティブ行動支援) | ○ 枝廣 和憲 |
| 1-21 | 地域保健センターにおける発達が気になる子どもの母親へのペアレントトレーニングの効果 | ○ 黒田 昌美 |
| 1-22 | 携帯端末利用による自主学習時間の促進効果の検討 | ○ 横田 卓也 大対 香奈子 |
| 1-23 | 時間遅延法では上衣更衣が困難であった重度片麻痺患者に対するプロンプト・フェイディングの併用練習の効果 | ○ 金子 涼香 加藤 宗規 |
| 1-24 | 理学療法士臨床実習生と実習指導者間における目標到達度調査—行動チェックシートを用いて— | ○ 井上 翔太郎 釣 洋介 竹谷 佳起 小笠原 悠人 |

ポスター発表 1 良心館 1 階 (RY104)

8月25日(土) ポスター掲示時間: 14:00~16:00

在席責任時間: 奇数番号 14:00~15:00

偶数番号 15:00~16:00

- | | | |
|------|--|---|
| 1-25 | 重度認知症患者がプロンプトフェイディングにより立位を獲得したケース | ○ 釣 洋介 石川 智敬 小澤 美紅 中山 千亜希 |
| 1-26 | 自閉スペクトラム症児の会話スキルに対する文字フィードバックの効果 | ○ 近藤 鮎子 田中 亜矢子 |
| 1-27 | (発表なし) | |
| 1-28 | TSD 法を利用した自閉症児の歯科診療への取り組み—歯科予防処置が出来るまで— | ○ 松岡 円 杉山 尚子 |
| 1-29 | 認知症患者に対する経路図の提示による歩行範囲拡大の試み | ○ 大口 拓也 釣 洋介 中山 千亜希 |
| 1-30 | 一般病棟の看護師における人工呼吸器の安全確認行動の可視化と遵守率向上に向けた介入 | ○ 和田 山智子 飛田 伊都子 平松 八重子 山田 利恵 高野 佳子 志摩 久美子 伊藤 正人 |
| 1-31 | ダウン症児に対するスプーン使用の指導における視覚的手がかりとフェイディングの有効性 | ○ 岩城 夢由菜 米山 直樹 |
| 1-32 | 発達障がい児における音韻意識の獲得と般化—系列刺激ペアリングとマトリックス訓練を基盤にした英単語学習からの分析— | ○ 大森 幹真 |
| 1-33 | ASD 児における大小弁別の獲得を目的とした大小のひらがなカードによるネーミングの効果 | ○ 名取 咲希 荒岡 茉弥 米山 直樹 |
| 1-34 | 新任医療ソーシャルワーカーの現場教育 | ○ 太田 洋一 杉山 尚子 |
| 1-35 | 知的障害特別支援学級の児童におけるルビ入り文章の音読が漢字読みの習得に及ぼす効果 | ○ 河村 優詞 |

ポスター発表 1 良心館 1 階 (RY104)

8月25日(土) ポスター掲示時間: 14:00~16:00

在席責任時間: 奇数番号 14:00~15:00

偶数番号 15:00~16:00

- | | | | |
|------|--|---|----------------------------------|
| 1-36 | 自閉スペクトラム症児の感情の自己コントロール—集団ゲーム場面での対処行動の指導とフィードバックを用いて— | ○ | 長井 萌 朝岡 寛史 藤本 夏美 野呂 文行 |
| 1-37 | 自己刺激行動のある精神科入院中の認知症患者への介入 | ○ | 山崎 美樹 松下 将弥 山本 隆美 和田 剛宗 |
| 1-38 | 体育用具の準備片付け場面において特別な支援を必要とする児童と他児童の相互援助を促すための集団随伴性の適用 | ○ | 丹治 敬之 岡崎 健太 |
| 1-39 | 自由遊び場面における自閉症のある児童の対人的相互作用に及ぼす逆模倣の効果 | ○ | 古樋 咲世 |
| 1-40 | 身体的ガイドでは箸操作が困難であった症例に対する箸合わせ練習の効果 | ○ | 大山 匠 加藤 宗規 |
| 1-41 | 神経発達症児に対する構成反応見本合わせ課題が漢字の読み書きの獲得に与える効果 | ○ | 中山 由稀 瀬谷 奈々美 高浜 浩二 |
| 1-42 | 学校全体で取り組むポジティブ行動支援—児童会活動による子ども主体の PPR の効果— | ○ | 松山 康成 |
| 1-43 | 集団余暇活動における自閉スペクトラム症児の問題行動改善の試み | ○ | 藤原 実都 大西 貴子 |
| 1-44 | ASD 児に対する食物強化子および社会的強化子の質と量の違いがもたらす効果の検討—見本合わせ課題における正答率と従事率を指標として— | ○ | 文 瑞穂 米山 直樹 |
| 1-45 | 特別支援学校における機能的アセスメントに基づく介入—行動問題のある生徒の変化と教員の意識の変化— | ○ | 岩谷 明子 佐藤 美幸 |

ポスター発表2 良心館1階 (RY104)

8月26日(日) ポスター掲示時間: 12:30~14:30

在席責任時間: 奇数番号 12:30~13:30

偶数番号 13:30~14:30

- | | | | |
|------|--|---|--|
| 2-01 | 遅延価値割引事態における EL マウス (ADHD モデル) の衝動性の検討—並立連鎖スケジュールにおける SS 選択肢の遅延時間を変数として— | ○ | 久保 浩明 永井 友幸 森寺 亜伊子 池田 麻帆 岩崎 萌 中本 百合江 吉井 光信 麦島 剛 |
| 2-02 | 割引率のベイズ推定 | ○ | 山下 博志 吉野 俊彦 |
| 2-03 | 並立スケジュールのもとでの標的反応の形態および強化系列とそれらの反応の復活と関係 | ○ | 小幡 知史 森山 哲美 |
| 2-04 | ヒトにおける不確実強化子の選択—強化子間に代替性がない場合— | ○ | 佐伯 大輔 |
| 2-05 | 中学生における遅延割引と無気力感 | ○ | 寺尾 真実 空間 美智子 |
| 2-06 | ハトにおける選択期間が強化後遅延間選択に及ぼす効果 | ○ | 畑 佑美 佐伯 大輔 |
| 2-07 | 労力と時間の等しい条件下で課題の難易度が刺激選好に及ぼす影響 | ○ | 塚本 匡 小原 健一郎 |
| 2-08 | 高反応率区間への強化はその選択を増加させる | ○ | 松元 拓也 坂上 貴之 |
| 2-09 | ADHD モデル動物 EL マウスの遅延割引事態での衝動的選択についての双曲線関数モデルによる検討 | ○ | 麦島 剛 久保 浩明 永井 友幸 森寺 亜伊子 井上 真澄 中本 百合江 吉井 光信 |
| 2-10 | スピーチ課題後のコーピングの違いがストレス反応に与える効果 | ○ | 手塚 彩花 高浜 浩二 |
| 2-11 | からかい場面への切り返しとしてのユーモアの有用性 | ○ | 藤枝 周平 大対 香奈子 |

ポスター発表2 良心館1階 (RY104)

8月26日(日) ポスター掲示時間: 12:30~14:30

在席責任時間: 奇数番号 12:30~13:30

偶数番号 13:30~14:30

- | | | | |
|------|---|---|---------------------------------|
| 2-12 | ASD児に対する高次条件性弁別に基づく自己動作のタクト訓練の効果 | ○ | 加藤 隆規 高浜 浩二 |
| 2-13 | 自閉スペクトラム症児に対する行動連鎖化を用いた数概念の指導 | ○ | 外川 輝 岩崎 紫帆 高浜 浩二 |
| 2-14 | 神経発達症児に対するフォニックスに基づく刺激等価性の形成が英単語書字に与える効果 | ○ | 若林 風佳 田口 典子 高浜 浩二 |
| 2-15 | タッチパネルを用いた刺激ペアリング手続きによる漢字の読み指導の効果 | ○ | 野田 航 庄司 芹奈 |
| 2-16 | 自閉スペクトラム症児に対する遊び場面における適切なことばの使用のための指導 | ○ | 永富 大舗 長井 萌 林 詩穂里 野呂 文行 |
| 2-17 | 強迫性障害の女性とその母親に対する行動アセスメントおよび介入の効果 | ○ | 仁藤 二郎 奥田 健次 |
| 2-18 | ダウン症児における同一見本あわせを用いた色概念の形成 | ○ | 趙 アルム 米山 直樹 |
| 2-19 | 強迫性障害に対する行動指標に注目した ERP | ○ | 岡本 直人 |
| 2-20 | 大学生に対する「価値の明確化」を導入した睡眠教育の効果—睡眠促進行動からの検討— | ○ | 湯澤 舞子 高浜 浩二 |
| 2-21 | コミュニケーション症児に対するメトロノームを用いた音読訓練が吃音の頻度に与える効果について | ○ | 半田 瞳 高浜 浩二 |
| 2-22 | 自閉スペクトラム症児に対する「運動・社会性発達支援プログラム」を用いた社会スキルの獲得 | ○ | 関根 悟 山本 淳一 |
| 2-23 | しりとり弁別課題を用いた留学生に対する日本語速聴訓練 | ○ | 譚 康莉 |
| 2-24 | 重度認知症患者に対し起き上がり動作の獲得を目指した介入 | ○ | 佐々木 生 中山 直之 |

ポスター発表2 良心館1階 (RY104)

8月26日(日) ポスター掲示時間: 12:30~14:30

在席責任時間: 奇数番号 12:30~13:30

偶数番号 13:30~14:30

- | | | | |
|------|--|---|--|
| 2-25 | 人工骨頭置換により脱臼肢位のリスクがあるデイケア利用者への介入—視覚的フィードバックを用いて床上動作を獲得した症例— | ○ | 田辺 尚 遠藤 晃祥 |
| 2-26 | 重度認知症者に対する車椅子操作獲得について—ブレーキ操作の先行刺激とフェイディング— | ○ | 小杉田 和樹 田辺 尚 渡辺 ななみ 池田 優香 遠藤 晃祥 |
| 2-27 | 発達障害及び知的障害のある子どもの適応行動を充実させるためのアプリケーション教材の開発及び介入効果の検討 | ○ | 近藤 健太 |
| 2-28 | 通常学級に在籍する児童の問題行動と授業参加行動について | ○ | 西村 暁 佐藤 美幸 |
| 2-29 | 自閉スペクトラム症児に対するパソコンを利用した社会的スキル訓練の開発—対人トラブルへの対処スキルの形成— | ○ | 田口 典子 高浜 浩二 |
| 2-30 | ハンドサインの勝敗判断におけるじゃんけんの文脈制御(2)—三択課題を用いた脱フュージョン— | ○ | 高野 愛子 |
| 2-31 | セラピストスキルチェックリスト(TSCL)の有用性に関する予備的検討—先行刺激操作・プロンプト・標的行動・強化を対象に— | ○ | 菅佐原 洋 近藤 鮎子 山本 淳一 |
| 2-32 | 生態学的空間における自閉スペクトラム症児の共同注意の評価—「注意・共同注意支援プログラム」の構築に向けて— | ○ | 小山 雅代 山本 淳一 |
| 2-33 | ICTを用いたビデオモデリングによる学校ソーシャル・スキルズの獲得—就学移行期の家庭学習支援— | ○ | 秋本 雅衣子 山本 淳一 |
| 2-34 | 発達支援文脈に対応した対人相互作用の分析: モーションキャプチャシステム評価の外的妥当性 | ○ | 大森 由紀乃 関根 悟 山本 淳一 |
| 2-35 | ASD生徒における発話速度と対話者負担の関係 | ○ | 吉田 望 竹内 康二 |

ポスター発表2 良心館1階 (RY104)

8月26日(日) ポスター掲示時間: 12:30~14:30

在席責任時間: 奇数番号 12:30~13:30

偶数番号 13:30~14:30

- 2-36 地域包括ケア事例に対する行動変容データベースの活用—行動レベルの課題解決からコミュニティレベルのシステム構築へ— ○ 梶谷 勇
児島 宏明
鍛冶 良作
小島 一浩
細野 美奈子
本間 敬子
松本 吉央
関山 守
- 2-37 神経発達症児に対する通常学級でのスクールシャドーが授業参加行動に与える効果 ○ 赤井 愛美
田口 典子
半田 瞳
高浜 浩二
- 2-38 職場における応用行動分析学的介入の試み—トイレ掃除回数に着目して— ○ 鈴木 優太
中山 直之
桂下 直也
千田 伸一
清水 翔太
高砂 恭兵
佐藤 佑哉
小野 涼哉
堀田 祐貴
定免 沙樹
- 2-39 神経発達症児に対する見本合わせ課題を用いた漢字熟語指導 ○ 柿本 りえ
半田 瞳
高浜 浩二
- 2-40 「遅刻」に対する応用行動分析学的介入の試み ○ 千田 伸一
中山 直之
桂下 直也
清水 翔太
高砂 恭兵
鈴木 優太
佐藤 佑哉
小野 涼哉
堀田 祐貴
定免 沙樹

ポスター発表2 良心館1階 (RY104)

8月26日(日) ポスター掲示時間: 12:30~14:30

在席責任時間: 奇数番号 12:30~13:30

偶数番号 13:30~14:30

- | | | | |
|------|---|---|----------------------------------|
| 2-41 | 対人援助領域における応用行動分析学の実践を妨げる要因の予備的検討 | ○ | 二階堂 哲 渡辺 修宏 小幡 知史 |
| 2-42 | 学校コンサルテーションにおける教師と保護者の行動変容—特別支援学校の事例研究会を通して— | ○ | 上條 くる美 青木 高光 奥田 健次 |
| 2-43 | 自閉スペクトラム症児に対する硬貨弁別訓練を組み合わせた買い物スキル指導の効果 | ○ | 荒岡 茉弥 米山 直樹 |
| 2-44 | 変容のアジェンダの測定の試み—Implicit Relational Assessment Procedure: IRAP を用いて— | ○ | 井上 和哉 嶋 大樹 高橋 まどか 熊野 宏昭 |
| 2-45 | 動機づけ面接が会話内容の反応分化に及ぼす効果 | ○ | 首藤 祐介 松本 奈保 磯村 毅 |

公開講座

以下の公開講座1・2・3は年次大会の企画ではございません。
そのため、ご参加の際は別途お申し込みが必要となります。
お問い合わせは年次大会準備委員会ではなく各お問い合わせ先へお願いいたします。

公開講座1・2

8月26日(日) 12:30~15:30 良心館地下1階 (RY地2)

行動分析学でズバッと解決！(超・入門編)

—子育てや組織の「問題あるある」攻略法—

講座1 講師 島宗 理 (法政大学)
Satoru SHIMAMUNE (Hosei University)
講座2 講師 奥田 健次 (行動コーチングアカデミー)
Kenji OKUDA (Academy of Behavioral Coaching)

定員:200名(申込先着順)
参加費:3,000円(年次大会参加者は1,000円の割引)
お申込:以下の「申込フォーム」にてお申込ください。
<https://goo.gl/forms/b46aVXC3jtt3PeD53>
お問い合わせ: tamuto@mail.doshisha.ac.jp

公開講座3

8月26日(日) 12:30~15:30 良心館地下1階 (RY地1)

家族のための“しなやか”な認知症介護

—認知症とダンスする?!—

講師 S. M. McCurry 博士 (University of Washington, School of Nursing)

日本語通訳つき

定員:200名(申込先着順)
参加費:無料

以下の要領でお申し込みください。
1)宛先:rc-west@mail.doshisha.ac.jp
2)件名:【しなやか】参加申し込み
3)本文:1 ご芳名,2 ふりがな,3 領収書の必要
お問い合わせ: rc-west@mail.doshisha.ac.jp

一般社団法人 日本行動分析学会第 36 回年次大会
協賛企業ご芳名 (五十音順, 敬称略)

株式会社 学苑社

株式会社 北大路書房

株式会社 金剛出版

株式会社 星和書店

株式会社 ナカニシヤ出版

株式会社 二瓶社

株式会社 ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン

株式会社 丸善出版

特定非営利活動法人 ratik



プログラム学習で学ぶ 行動分析学 ワークブック

吉野智富美・吉野俊彦【著】
● B5判/本体 2500円＋税

エクササイズとプログラム学習を活用することで効率よく無理なく知識を身につけることができる。講義や研修会の教科書として活用されています。

◆スモールステップで知識を定着させ、学習を促す◆
解説を読む→問題や課題を読んで解答する→すぐに解答をチェックする

基礎から
応用まで
学べる

いじめられっ子の流儀

知恵を使いたいじめっ子への対処法

ケイト・コーエン・ポージー【著】
奥田健次【監訳】 冬崎友理【訳】
●四六判/本体 1600円＋税

いじめに屈しないために、知恵と機転でいじめっ子をひねり返す技を伝授。意地悪な攻撃やからかいに悩まされる人、そのよう人たちを支える親や指導者に勇気を与える1冊。



自閉スペクトラム ボディ・システムスタートブック

仲間づくりとコミュニケーションの支援

藤野博・森脇愛子【編著】 袖山慶晴【イラスト】
● B5判/本体 1600円＋税

発達障害のある子どもたちが、2人組での活動を通して、友だち・仲間関係を築いていくための支援方法を紹介。

新刊



アセスメントにもとづく 学齢期の言語発達支援

LCSAを活用した指導の展開

大伴潔・林安紀子・橋本創一【編著】
● B5判/本体 2800円＋税

LCSAを用いた指導の方法を具体的に解説。

新刊



自閉症児のためのことばの教室 新発語プログラム②

発語してから会話・概念獲得への32～60ステップ

石井聖・羽生裕子【著】
● B5判/本体 2200円＋税



〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-10-2
<http://www.gakuenasha.co.jp/>

学苑社

TEL 03-3263-3817 FAX 03-3263-2410
info@gakuenasha.co.jp

北大路書房

〒603-8303
京都市北区紫野十二坊町12-8
☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393
<http://www.kitaohji.com>

心理学からみた食べる行動

—基礎から臨床までを科学する— 青山勲二郎・武藤崇編著 A5・264頁・本体2500円＋税
なぜ食べるのか。どうして過食はおきるのか。重要な研究を厳選し、食行動のコントロールにおける「心理学的メカニズム」を解説。また、偏食や肥満、糖尿病の問題、摂食障害を取りあげ、科学的な根拠に基づいた食行動の異常の理解と介入方法を紹介します。

「気になる」子どもの社会性発達の理解と支援

—チェックリストを活用した保育の支援計画の立案— 本郷一夫編著 B5・96頁・本体1800円＋税
「気になる」子どもの行動の背景を理解するために開発された社会性発達チェックリスト。保育場面での幼児の行動に焦点を当てる。保育、発達支援の具体的な進め方を紹介。保育の支援計画の作成にも有用。保育者や巡回相談に携わる心理士の方に。

シリーズ 高齢者心理学【復刊】

—2018年刊行予定!— 太田信夫監修 佐藤真一編著 A5・約200頁・予価2200円＋税
発達心理学の一分野としての基礎的学習を通じ、公認心理師養成のための学習領域も解説。各巻では個人・社会、組織・産業、教育・学習、保健・医療、福祉・介護の領域での基本をまとめる。心理学を活かした仕事に役立つ知見と働く人々の今を伝えるシリーズ。

心の治療における感情

—科学から臨床実践へ— S. G. ホフマン著 有光興紀監訳 A5・224頁・本体2700円＋税
感情は、精神的健康の重要な決定因である。心理学的介入に関心のある臨床家や医療従事者に向けて、感情研究の基礎的な理論と知見を解説。生物学と神経科学、社会心理学、パーソナリティ心理学、動機づけ、近年のマインドフルネス瞑想法に至るまでを網羅。

基礎から学ぶ心理学・臨床心理学

山 祐嗣・山口素子・小林知博編著 2500円＋税

樹木園テスト

高橋雅春・高橋依子著 1700円＋税

実践者のための認知行動療法テクニックガイド

坂野雄二監修 鈴木伸一・神村栄一著 2500円＋税

セルフ・エフィカシーの臨床心理学

坂野雄二・前田基成編著 3200円＋税

P-Fスタディ アセスメント要綱

栗 一士著 2600円＋税

ふだん使いのナラティブ・セラピー

D. デンボロウ著 小森康永・奥野 光訳 3200円＋税

マインドフルネスストレス低減法

J. カバットジン著 春木 豊訳 2200円＋税

改訂 臨床心理アセスメントハンドブック

村上宣寛・村上千恵子著 2500円＋税

精神病と統合失調症の新しい理解

A. クック編 国重浩一・バーナード訳 3200円＋税

子どもの心の問題支援ガイド

教育現場に活かす認知行動療法



R.B.メヌッティ 他編/石川信一 他監訳

子どもが学校で示す心の問題、不安、抑うつ、摂食障害、ADHD、攻撃、いじめについて、認知行動療法の活用法を具体的に示す。

B5判 並製 274頁 3,400円

子どもの視点でポジティブに考える 問題行動解決支援ハンドブック



R・E. オニール 他著/三田地真実 他監訳

子どもに問題行動が現れたときは、慌てずにはまず落ち着こう。適切な解決方法は必ず見つかるはずだ。本書では、そのヒントを提示する。

B5判 並製 270頁 3,200円

マインドフル・ゲーム

60のゲームで子どもと学ぶ マインドフルネス



S・K・グリーンランド 他 著/大谷 彰 監訳

「60のゲーム」で子どもといっしょに学ぶ、楽しく遊びながらみるみる身につく画期的なマインドフルネス。

A5判 並製 248頁 3,000円

友だち作りの科学

社会性に課題のある思春期・青年期のためのSSTガイドブック



E・A・ローガソン 著/辻井正次 他 監訳

ソーシャルスキルに課題を抱える子どもと一緒に友達作りを楽しく実践しよう！ 科学的根拠にもとづくステップ・バイ・ステップのSSTセルフヘルプガイド。

B5判 並製 280頁 2,800円

Ψ 金剛出版

〒112-0005 東京都文京区水道1-5-16 e-mail : kongo@kongoshuppan.co.jp

Tel.03-3815-6661 Fax.03-3818-6848

*価格は税抜き表示です

はじめての行動分析学実験

—Visual Basicでまなぶ実験プログラミング—

日本行動分析学会 監修

青山謙二郎・武藤 崇 責任編集

中鹿直樹・佐伯大輔・桑原正修 著

行動分析学の実験研究を誰もが容易に習得し、確実に実行できるよう、パソコンを用いた実験の実行手順を解説。

行動分析学実験の解説書決定版！

B5判 150頁 CD-ROM付 2,200円+税

◎主な内容

第1章 Visual Basicの基本操作

Visual Basicを使ってみよう

変数の利用

条件判断

画像の配置とTimerコントロールの利用

Timerコントロール

繰り返し処理

配列の利用

乱数の利用とForm_Loadイベント

反応の検出

(Form_MouseDownとForm_KeyPress)

ファイル操作 (ファイルへの書き込み)

第2章 強化スケジュール

FRスケジュール

VRスケジュール

FIスケジュール

VIスケジュール

DRLスケジュール

VIスケジュールの完成

第3章 見本合わせ

単純弁別

条件性弁別 (2選択)

排他律

条件性弁別 (3選択)

第4章 選択行動

並立スケジュール

並立連鎖スケジュール

価値割引

★すぐに始められる
プログラムコード付!

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15

tel: 075-723-0111 fax: 075-723-0095 http://www.nakanishiya.co.jp/



行動分析学研究 アンソロジー 2010

〈編〉日本行動分析学会
〈責任編集〉藤健一, 望月昭, 武藤崇, 青山謙二郎
B5判 並製 320頁 定価: 本体3,500円+税

行動分析学初学者の「行動分析的な研究とはどのようなものか」の問いに具体的に答えるために編纂された。哲学、理論、基礎実験、応用実験、実践と多岐にわたる珠玉の論文21編を収載。



セラピストが 10代のあなたにすすめる ACT (アクセプタンス & コミットメント・セラピー) ワークブック

悩める人がイキイキ生きるための
自分のトリセツ

〈著〉ジョセフ・V・チャロッキ, ルイズ・ヘイズ, アン・ベイリー
〈序文〉スティーブン・C・ヘイズ
〈監修〉武藤崇 〈監訳〉大月友, 石津憲一郎, 下田芳幸
A5判 並製 216頁 定価: 本体1,700円+税

最新の科学的な心理療法ACTに基づいて、心理的な苦悩に対処し、自分らしい価値ある人生を生きるためのスキルを教える。若い人向けに分かりやすく解説され、楽しい練習課題が満載のワークブック。

よくわかる ACT

アクセプタンス&コミットメント・セラピー

明日からつかえる ACT入門

〈著〉ラス・ハリス
〈監修〉武藤崇
〈訳〉武藤崇, 岩淵デボラ, 本多篤,
寺田久美子, 川島寛子



A5判 並製 464頁
定価: 本体2,900円+税

ACT (アクセプタンス&コミットメント・セラピー) の超・入門書。クライアントとの対話例やメタファー、臨床に使えるワークシートが豊富で、明日からでも ACT を臨床場面で使いこなすことができる。

使いこなす ACT

アクセプタンス&コミットメント・セラピー

セラピーの 行き詰まりからの抜け出しかた

〈著〉ラス・ハリス
〈監修〉武藤崇
〈監訳〉三田村仰, 酒井美枝, 大屋藍子



A5判 並製 264頁
定価: 本体2,800円+税

ACT 実践家のために、セラピーの行き詰まりから抜け出す方略を示した臨床家向けガイドブック。初心者だけでなくすべてのセラピストが行き詰まりから解き放たれ、ACTをうまく使いこなし、効果的にセラピーを行うために。

星和書店

〒168-0074 東京都杉並区上高井戸1-2-5
TEL 03-3329-0031 / FAX 03-5374-7186
URL <http://www.seiwa-pb.co.jp/>

ご注文案内: 星和書店刊行の図書は、お近くの書店様からでも入手できます。ご入用の本が店頭がない場合は、お店の方にご注文ください。

ピラミッド教育コンサルタントは世界中に^{ベクス}PECS® (絵カード交換式コミュニケーション)と教育へのピラミッドアプローチに関するワークショップを開催中

自閉症や発達障がい分野で支援されている保護者、支援者、教育者を対象に最上級のトレーニング、家庭や学校または施設でのコンサルテーションやサポートを提供。



^{ベクス}PECS® プロトコルは世界中の何十万人もの専門家によって様々な環境ですでに巧妙に利用されエビデンスベースのPECS®は拡大・代替コミュニケーションとして使用されています。

ご質問等はお気軽にお電話またはメールにてお問合せください。

ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン株式会社
Tel: 093-581-8985 Email: pyramidjp@pecs.com Web: www.pecs-japan.com



ピラミッド教育コンサルタントは、エビデンスベースの機能的コミュニケーションシステム^{ベクス}PECS®と教育へのピラミッドアプローチに関する正しい情報が得られる唯一の機関です。

PYRAMID
EDUCATIONAL
CONSULTANTS

2019年1月
刊行予定

行動分析学事典

日本行動分析学会 編 編集委員主幹／武藤 崇 編集顧問／坂上貴之
編集委員／井澤信三・大河内浩人・中島定彦・藤 健一
A5判・768頁 予価(本体20,000円+税) ISBN978-4-621-30313-9

行動分析学の手法は、教育、介護・福祉、医療、ビジネス、スポーツ、家庭などさまざまな現場で応用され、目覚ましい成果をあげています。また、国家資格「公認心理師」の誕生もあり、今後ますます注目の高まる分野です。本書は、見開き4pの読み切り構成で、大学生・大学院生などの初学者から研究者、実務家に至るまで幅広い読者に役立つ、基礎から応用、実践までを網羅した体系的な中項目事典です。

第1部：哲学・概念・歴史 (37項目)／第2部：実験的行動分析 (62項目)／
第3部：応用行動分析 (55項目)／第4部：行動分析学における実践 (18項目)

丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6階 書籍営業部
TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270 <https://www.maruzen-publishing.co.jp>

一般社団法人 日本行動分析学会第 36 回年次大会
準備委員会

委員長 武藤 崇
委員 青山謙二郎
大屋 藍子
福田 実奈

大会事務委託 有限会社 リファレンス

一般社団法人日本行動分析学会第 36 回年次大会発表論文集

発行者 日本行動分析学会第 36 回年次大会準備委員会

委員長 武藤 崇

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3

同志社大学心理学部 武藤研究室内

メールアドレス：jaba-meeting@j-aba.jp

ホームページ：http://www.j-aba.jp/meeting/2018/

表紙デザイン 武藤 崇